



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四七六号）

寒露 かんろ

十月八日

伊勢まつり

十月、秋祭りが各地で行われます。春に行われる祭りが、農事の始まりに豊作を祈るのに対して、秋祭りは稲の収穫後に新穀を供えて神に稔りの感謝するのです。

老人と子供と多し秋祭

高浜虚子

バス停の位置をずらして秋祭

堀之内和子

群山の幸を余さず秋祭

藤田湘子

俳句からは、各地の秋祭の様子がうかがえます。

伊勢では、十月十日、十一日に「伊勢まつり」が盛大に行われます。伊勢音頭など伝統芸能の披露やパレードなどが繰り広げられ、伊勢市駅から県道の宮町交差点あたりまでが祭一色になります。第一次お木曳行事が盛大に行われた今年は、「伊勢まつり」でも、お木曳車の展示や木遣り唄の披露など、いつもより賑やかになりそうです。

私が楽しみにしているのは、宮後町の出す「ねぶた」です。お木曳行事の「上せ車」の際に拝見して、その精度の高さに驚いたからです。毎年テーマを変え、町内の人たちにより手作りされています。

今年はイザナギノミコトとイザナミノミコトです。「国生み神話」ではこの男女の神々が日本という国を作ったと語られています。宮後町のねぶたはお木曳車の上に男神と女神が背中合わせに作られています。迫力満点の絵柄で、曳き始めると時折、くると回転して、目を引きまします。

そして、あたりが暗くなると、電飾もされて華やかに。木遣り唄も唄われ、盛り上がります。

今年は二〇年ぶりにお木曳が行われ、地域の結束が固くなっているときです。伊勢まつりも例年以上に盛り上がるでしょう。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第2回 神恩感謝 灯りのまつり

おかげ横丁は、1993年の第61回式年遷宮の年に開業以来、地域の文化や暮らしを大切にしながら歩んでまいりました。

このたび、初の試みとして、約2,000個の提灯で夜の町並みを彩る「灯りのまつり」を開催します。

期間中は、神宮への感謝を伝える「奉納行列」や「神恩感謝 日本太鼓祭」など、さまざまな催しを実施し、伊勢の秋をより深く味わっていただきます。

期 間／10月10日(土)～11月24日(火) 夕暮れ～20:00

夜間営業／【18:30まで】10/10(土)、10/11(日)、10/23(金)、
10/24(土)、11/22(日)

【20:00まで】11/3(火・祝)、11/23(月・祝)

入 場 料／無料

○ 第24回 神恩感謝日本太鼓祭

日本人は古来、太鼓を打つことで、暮らしの息災と豊穡を神様にお祈りしてきました。

私たちは、その伝統と精神を受け継いで、太鼓のお祭りを神宮の神様に奉納します。

全国各地から集まった太鼓打ちが、日本人のこころのふるさと伊勢の地にて、感謝と畏敬の想い、そして日々の鍛錬で高めた技で打ち込みます。

日 時／10月24日(土) 10:00～17:30

10月25日(日) 10:00～17:00

会 場／おかげ横丁一帯

入 場 料／無料

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ 豊臣秀吉と伊勢神宮

赤福餅やへんば餅・二軒茶屋餅など、伊勢には数多くの銘菓があります。その中で、異彩を放つのが「太閤出世餅」です。なぜ秀吉ゆかりのお餅が伊勢神宮のお膝元で生まれ、今日まで親しまれてきたのでしょうか。実は、秀吉と伊勢神宮はとても深いつながりを持っていました。どうやらこのことが歴史的背景となっているようです。講座では秀吉による遷宮の再興のほか、大政所や豊臣秀次の伊勢参宮の事例などをもとに、両者の関係に迫ります。

日 時／10月8日(木) 13:30～15:00

講 師／谷戸 佑紀(皇學館大学文学部国史学科 准教授)

場 所／五十鈴塾右王舎

参加費／一般 1,500円 会員 1,000円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

てり は
照 葉

木々の葉が黄色から朱色に変わり行く情景が伊勢路の山々でも見られるようになりました。粒餡の中に包んだ練り切りの紅葉をお楽しみ下さい。

な ごり づき
名 残 月

神域の夜空にぼっかり浮かんだ満月を、伊勢の人々は昔から愛でてきました。山芋と葛を合わせた生地で粒餡を包み、すすきの焼き印を押して名残月を表しました。

こす もす
秋 桜

白、薄紅、さんご色、コスモスが色とりどりに咲く伊勢志摩の秋。浮島の生地に葛寒天と羊羹を重ね、風の渡りに波打つコスモスの群れに似せました。